

IV 研究問題と協議内容

1 討議題 「総合的な学習の時間における福祉活動」

豊科南中 「地域や学校の特色を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発」

【質疑・討議】

- ・生徒会と総合的な学習の時間の結びつきについて
- ・3年間を見通したカリキュラムについて
- ・福祉で学習したことが日常の生活に繋がっているか
- ・評価カードだけでなく、コメント、ビデオメッセージをいただく等評価の工夫を行うと、実践意欲が高まるのではないか
- ・家庭科での保育実習と繋がる良いきっかけになるのではないか。
- ・総合の学習の時間に割り振られた予算について

2 討議題 「総合的な学習の時間におけるキャリア教育」

山辺中 「地域や社会との交流を通して、生徒が自己を振り返り、これからの生活に向けた実践意欲を高めることができる総合的な学習の時間」

【質疑・討議】

- ・山辺ドリームと子どもの意識の繋がりについて
- ・故郷へ目を向けるキャリア教育に向けて、地元とのつながりについて
- ・小学校での総合的な学習の時間の繋がりについて
- ・3年間のカリキュラムについて

3 討議題 「総合的な学習の時間における地域学習」

附属松本中 「自らの内に問いを立て、主体的に探求していく総合的な学習の時間」

附属長野中 「自ら『問い』を立て、自らの生き方を見いだす生徒の姿」

広陵中 「言語活動を通じた主体的な学びの創造」

豊丘中 「自らの考えをもち、友とのかかわりを通して主体的に学び、自己の伸びを実感することのできる子どもの育成」

【質疑・討議】

- ・生徒による3年間の総合振り返りの発表について
- ・地元の方や観光客の反応について
- ・小中連携について
- ・総合を通して子どもの日常での変化について
- ・学習カードを書けない子どもへの手立てについて
- ・語り手の減少について
- ・各校での平和学習について
- ・子どもの興味の惹かせ方について
- ・国語と総合との結びつきについて
- ・9教科の学習と総合的な学習の時間の違いについて
- ・「問い」の変容について
- ・学級総合のテーマ決定について

4 「今後の総合的な学習の時間の展望」について指導者の先生のご指導

- 新学習指導要領では、各教科と総合的な学習の時間との関わりが更に大切にされていく。実社会、実生活とつながり、関連付けて考えられるかを狙っていきたい。学習指導要領による第1の目標の示し方は今までと変わらない予定。学校独自の目標や活動へとつなげていきたい。
- 子どもたち自身が、どうしてだろう、やってみたいな、はっきりさせたいなと思っているか。そう思うのは、教師の意図的な働きかけがあるから。子どもたちにとって自分事となる課題となることを目指して、教師は積極的に展開を工夫していきたい。
- 実社会や実生活における問題について、児童が自ら課題を設定する。そうすると「課題の設定→情報の収集→整理、分析→まとめ・表現」のサイクルが一番スムーズにいくだろう。それが子どもたちの伸びに繋がっていく。
- どの学校においても、その学校実態に合わせて探究的な学習の過程を生かすことが大切。実態に合わせて無理とあきらめるか、その行事にあてはめて、なんとか探究のサイクルがつけられないだろうかと考え、解決していくことが大切。決まっている行事、これからの行事はあるだろうが、その中でいかに子どもの中にどうやったら問いを先生と育ていけるのか。そのやり口をどうやっていくかを考えていかなければならない。
- 学校目標と直結して行えるのが、総合的な学習の時間である。総合的な学習の時間と学校で抱えている課題を結び付けて、よりよくしていく。これが総合的な学習の時間の良さである。
- PISA2003の調査では、日本の学力低下がみられたが、総合的な学習の時間の取り組みによって、PISA2009以降大きく回復しているという分析がある。また、全国学力学習状況調査でも、各教科の内容の定着度と相関関係があることも指摘されている。総合的な学習の時間で得た成果を、今後も大切にしていきたい。